

●2003年4月28日

BioTie(バイオティエ)社と抗炎症剤のライセンス契約を締結

生化学工業株式会社(社長 榎 史朗)とBioTie Therapies Corp.(以下、バイオティエ社、フィンランド、社長・CEO Jari Saarinen)は、バイオティエ社が創製した抗Vap-1モノクローナル抗体を用いた抗炎症剤の開発および商業化に関するライセンス契約を、2003年4月15日に締結いたしました。

本契約により、生化学工業は日本、台湾、シンガポール、ニュージーランド、オーストラリアにおける同剤の開発、輸入、製造、販売に関する独占的実施権を取得し、契約一時金および成果に応じたマイルストーン報酬をバイオティエ社に支払います。

抗Vap-1抗体はバイオティエ社が世界に先駆けて創製した接着分子Vap-1(Vascular Adhesion Protein-1)に対するモノクローナル抗体です。炎症の原因と言われている「白血球の炎症部位への集積および浸潤」に関与するVap-1を阻害することにより、炎症を抑える働きが考えられています。

従来の抗炎症剤が炎症性物質の発生や作用を抑制するのに対して、抗Vap-1抗体は白血球の動きをコントロールする接着分子に作用する点で極めて新規性が高く、炎症性疾患に広く用いられる治療薬として期待されます。目標疾患は関節リウマチ、乾癬、炎症性腸疾患などで、生化学工業では2004年に日本における臨床試験の開始を目指します。

バイオティエ社は、フィンランド アカデミーの筆頭研究者の研究成果に基づく、研究開発型ベンチャー企業です。接着分子Vap-1と自己免疫疾患との関わりに世界で初めて着目し、Vap-1に対する抗体、低分子化合物など、新規作用機序による医薬品開発を進めています。この他にも、アルコール依存症、炎症性疾患などに関する種々の開発シーズを有しています。生化学工業は、研究開発基本方針として、複合糖質および関節疾患を重点項目と位置づけており、関連する炎症、免疫、アレルギーなどの各疾患領域についても、共同研究、ライセンス活動を積極的に進め、製品パイプラインの更なる拡充を図っています。

本契約により、バイオティエ社では、抗Vap-1抗体の世界レベルでの開発・事業化が前進することとなります。生化学工業では、関節疾患・炎症性疾患における研究開発の強化と今後の販売品目の充実につながるものと期待しています。

<ご参考>

BioTie (バイオティエ)Therapies Corp.

- <設立> 1992年
- <本社> Finland Turku市 (Bio Cityビル)
- <代表者> 社長・CEO Jari Saarinen
- <上場> Helsinki Stock Exchange
- <業務内容> アルコール依存症・炎症疾患領域、グライコバイオロジー分野における、新規性の高い治療薬の研究開発。
- <従業員数> 95名